

やぶなべ

青森県立青森高等学校生物部 発行

誌名	やぶなべ
号/発行年/頁	7 / 1961 / 27-28
タイトル	県下小中高理科研究発表会において
著者名	横山義弘

自然を見つめる やぶなべ会 (青森)

県下小中高校理科研究発表会において

2年 横山 義 弘

赤トンボが津軽の野ヅラに飛び交う10月の1日、あいにく天気は曇りではあったが、今日は年に1度の(我々の研究の成果を発表すべき機会であるところの)県下小中高校理科研究発表会の日である。朝早く起きて汽車で弘前へと向かう。発表者は「潟沼におけるフランク톤の日間活動——主にウミジンコについて——」の今田君と、「潟沼周辺の地表面植物相」の山内さん、その他に僕の様な付録(どうも失礼)が5人(僕、太田君、武田君、千葉さん、中村さん)それに石川先生の合計8人である。

弘前駅に着くまで色々とスピーチの仕方について話し合う。発表者はちよつと深刻な顔をしているが、僕等付録は気楽なもので色々迷アドバイスも飛び出してくる。やがて列車はりんごの本場、弘前駅に着いた。駅前からバスで会場の県立弘前中央高校へ向かう。バス代15円也。太田君の話しによれば此の前夜が弘前に来た時、中央高校をアパートかと思ったそうである。この間バスの中から見る弘前の町は流石に商店街をはなれると古風で静かだが、道路の狭いのが気にかかる。やがて中央高校へ到着。開会式の後で石川先生は小学校部門の審査員となっている為、隣りの時敏小学校へ、我々は発表会場へ。会場は3階で非常に見晴らしがよい。赤レンガの弘大教育学部が見えるし、東京タワーも見える?(これはうそ)。やがて発表が始まる。僕は動物部門の発表を傍聴。途中で室谷先輩がやって来た。

では次に入賞作品と大体の内容を書いてみよう。

物理

- | | |
|---------------------|---------|
| 1位 「照度計の製作とその特性測定」 | 弘 工 高 |
| 2位 「落下運動の時間測定法について」 | 弘 中 央 高 |
| 3位 「混合液の抵抗率変化」 | 田 名 部 高 |

化学

- | | |
|---------------------------|---------|
| 1位 「酸と金属の反応(第1報)硫酸と金属」 | 青 工 高 |
| 2位 「マタネシウムリボンと酸の反応速度について」 | 弘 中 央 高 |
| 3位 「ボルタの電池の起電力」 | 田 名 部 高 |

地学

- | | |
|---|---------|
| 1位 「田名部地方の土壌の緩衝能力(Buffer Capacity)について」 | 田 名 部 高 |
| 2位 「烏帽子岳山頂に於ける気象研究」 | 野 辺 地 高 |
| 3位 「泥炭中の花粉について」 | 弘 実 高 |

動物

- | | |
|-------------------|---------|
| 1位 「ミミズの皮膚感覚について」 | 弘 中 央 高 |
|-------------------|---------|

材料は身近にあるフトミミズを用い、ミミズの体表に7箇所を選定していろいろの濃度の水酢酸液と針金でついた場合との反応を調べ、どの部分が最も敏感であるかを調査、

結果としては、背面、側面、腹面の順で鋭敏である事、又、環帯の部分は特に鈍いことがわかった。

2位 「馬沼におけるフランクソンの日周活動—主にゾウシジミコについて—」 青森高

非常に長ったらしい題である。内容は本紙の馬沼調査旅行のページを見よ。惜しい事には発表者の今田君、少々アガッてしまい、純粋の津軽人の短所を發揮？ ハチオンがはつきりしなかった。しかし、柏木農業高校の一先生から、「この様な立派な研究を先輩から後輩へと受継いで行なっている青高をうらやましく思う。」とのお言葉あり。

3位 「弘前市内の公衆浴場の汚染度について」 弘中央高

弘前市内を6地区に分けて公衆浴場の汚染度を調べたもの。お湯は最もすいている時と混んでいる時(但し、どちらも夕方)の1日2回もらって来て一晩中冷やし、翌日、細菌、大腸菌、有機物、塩素イオン、寄生虫卵等の量や濁度、温度を調べたものである。結果としては土、日曜日が一番汚染度が激しい事が判明。子曰く「土、日曜日の風呂には入るべからず?!」

植物(僕は聞かなかったので題と順位だけ)

1位 「馬沼周辺の地表面植物相」 青森高

でかしたぞ、我が部のメラハド(女の子運)よ、(かげの声「あっ、これで又尻にしかれるか」ある男)。発表態度は立派で内容も文句のつけようがない(質問されそうなことはみな言ってしまったから!?)とのことであつたが、足クセが少々目についた。(真相は本人にどうぞ)

2位 「アルコール発酵に於ける濃度と温度の関係」 田名部高

3位 「ミロツメクサの奇形」 聖愛高

皿ッ葉のクローバーはいざ知らず五ッ葉・六ッ葉等の奇形を撮気よくさがした努力に對して敬意を表したい。只、余りにその努力を売り込んで、その後の統計や考察がまだ不十分の様に思われた。

余談を2つ3つ(ニゴシツ)

我が青高生物部の太田裕一君、フロタラムを見て驚いた。弘中央高にも太田裕子さんというお方がいるではないか!?. 彼は始めのうちは横柄したりニヤニヤしていたが、彼女に会ってみたら仲々の美人で又ビックリ。更に驚いた事には我が部の山内さんと従兄だということで驚くよりあきれてしまった。後で皆に冷やかされて彼はニヤーリ・ニヤーリ。

発表会の後で室谷先輩の下宿へ押しかけて外国産の珍蝶の標本を見せてもらった。キミタアゲハ、アケボノアゲハ、アレクサンドアゲハなどの大型やゼフィルス類等珍しい蝶を沢山見せてもらい太田君ならずとも我々でもほしくらいである。帰りは駅までタクシー。その後汽車で帰青。疲れたが有意義な1日であつた。

先輩諸君よ、この伝統を守れ、来年もたのむぞ、!